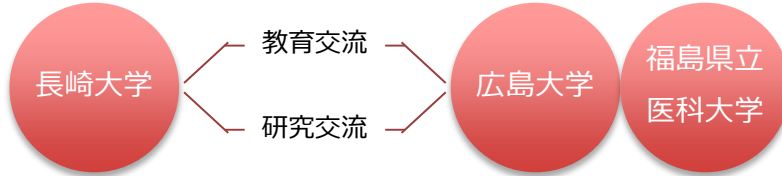


・平成28年度大学教育再生戦略推進費
「放射線健康リスク科学人材養成プログラム」

長崎大学医学部医学科先端医育センター 助教 浦田芳重

放射線健康リスク科学人材養成プログラム

放射線健康リスク科学ネットワーク



放射線健康リスク科学コース 放射線健康リスク学 放射線災害医療学

長崎大学・広島大学・福島県立医科大学共同事業

放射線災害を経験し、放射線健康リスク科学に関する教育リソースを有する3大学が連携し、リアリティの高い放射線健康リスク科学教育に基づき、段階的・組織的な教育体制のもとで、放射線グローバルヘルスにも貢献できる人材を養成。

学部教育における新たな教育プログラム

- 平成29年度より医学科2年次環境因子系講義実習及び医学ゼミを放射線健康リスク科学コースに大幅改訂、推薦入試国際保健医療枠（平成30年度よりグローバルヘルス研究医枠（仮称）に再編成）に放射線健康リスク科学コース開講（長崎大）
- 従来の放射線生物学を平成28年より放射線健康リスク学に再編成、座学に加え実習も実施（広島大）
- 従来の放射線生物/災害教育（6時間）から平成24年より行っている放射線生命医療学&PBL（3年生40時間）、放射線災害医療BSL（5年生27時間）の再評価を平成28年度より施行（福島県立医大）

大学院教育における研究者養成

- 共同大学院「災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）」（長崎大・福島県立医大（平成28年～））
- 博士課程教育リーディングプログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」（広島大（平成23年～））

高度プロフェッショナル養成

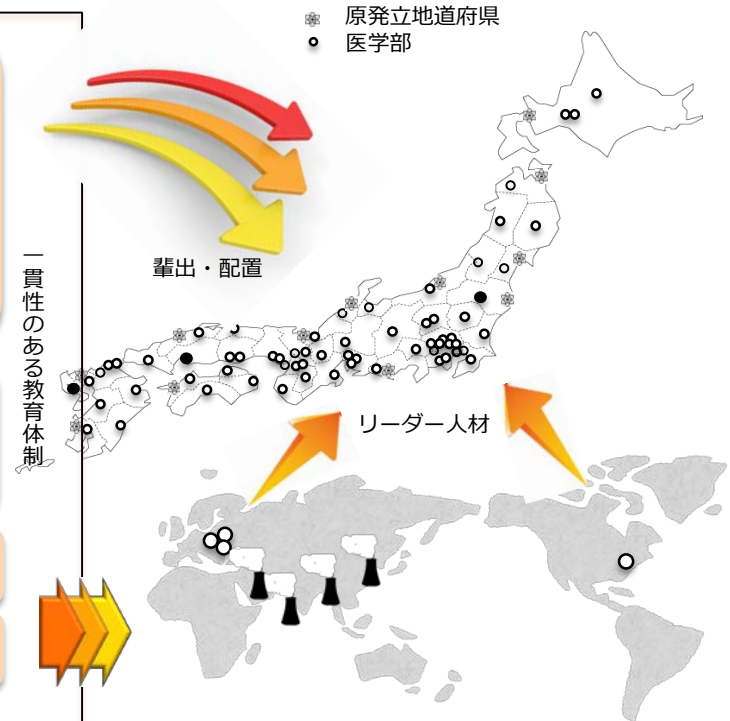
- ネットワーク型放射線災害・医科学研究拠点（広島大、長崎大、福島県立医大、平成28年4月設置）

グローバルヘルスと原子力災害に対応

- 高度被ばく医療支援センター/原子力災害医療・総合支援センター（長崎大、広島大、福島県立医大、平成27年10月指定）

放射線健康リスク科学リソースセンター構想

放射線健康リスクに関わる部局、専攻、センターのヒューマンリソース、教育研究機器資材、教育コンテンツ、知識・経験等を横断的、網羅的に把握、活用



国際機関への人材供給
エネルギー需要の拡大による地球規模での原子力リスクへの対応

	長崎大学	広島大学	福島県立医科大学
レギュラーコース	<ul style="list-style-type: none"> • 医学部医学科学学生対象 • 1コマ60分×30回 • 放射線の基礎に関わる科目に実学として規制科学、放射線防護を取り入れ、さらに放射線リスクコミュニケーションと放射線被ばく医療について福島原発事故により得られた経験、教訓を最大限生かしたリアリティの高い教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 医学部学生（保健学科を含む）、薬学部学生、歯学部学生対象 • 1コマ（90分）/日×15回 • 放射線の生物学的影響に関する基礎的知識を与えるとともに、放射線の臨床的有用性とリスク、放射線災害への対応等を、講義および放射線災害への対処に関した実習により習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 医学部学生対象 • 1コマ60分×29回（3年） • 1コマ60分×24回（5年） • 放射線・災害の基礎から臨床、社会科学を包括的に学習するとともに、リスク制御、放射線リスクコミュニケーション等について原発事故により得られた経験、教訓を最大限生かしたリアリティの高い教育を行う。
講師派遣 学生交流 成長への影響に着目した教育評価システムの構築			
インテンシブコース	<ul style="list-style-type: none"> • 推薦入試枠学生2名程度及び一般学生より3名程度受入れ • 長崎大川内村復興推進拠点等を活用したフィールド実習 • 長崎大学・福島県立医科大学 共同大学院 災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）講義の共修 	<ul style="list-style-type: none"> • 医学部学生（保健学科を含む）、薬学部学生、歯学部学生、大学院生、後期研修医、放射線教育に関わる教員 • 夏季休暇中に集中実施 • 講義 • 実習 • DVD 	<ul style="list-style-type: none"> • 平成28年度以降入学・在学中の医学部・看護学部学生、共同大学院学生、日本国内および海外からの学生・大学院生、日本国内の医療関係者・搬送関係者・行政関係者 • E-learning・講義・実習・被災地見学・健康相談事業などを総合した4日～6日コース

- 長崎大学シラバスについて

環境因子系

責任者	氏名	工藤 崇	内線	7101
	教室	原研放射 (アイソトープ診断治療学)	e-mail	tkudo123@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	3年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Environmental Science		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

生活環境には電離放射線や紫外線が存在し、特に電離放射線は医療や研究に利用されている。これらの放射線の性質・作用および医療における利用法を学び、放射線に関する基礎知識を身につける。さらには、放射線・紫外線の健康影響を自分で調査・評価できる技術を習得する。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

放射線・紫外線の性質・作用・健康リスクを分子レベルから組織レベル、個体レベルにいたる多方面から幅広く解説する。また、長崎原爆や福島原発事故の話題も交えながら放射線防護、疫学について解説する。
実習では、放射線の測定および被ばくによる健康リスク評価を体験し、技術を習得する。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
放射線基礎医学	青山 番 編纂	金芳堂	5,900 円

この他に、各自で授業に関連した興味深い本を探してください。

4. 成績評価の方法・基準

期末試験：80%
授業への取り組み：20%

5. 教員名

原研放射：工藤 崇、井原 誠、西 弘大
原研医療：鈴木啓司
原研情報：三根真理子、近藤久義
原研アイン：松田尚樹、山内基弘

6. 備考 (準備学習等)

LACSに講義資料を掲示するので、予習しておくこと。
実習に欠席しなければならない場合は、あらかじめ届けるか、連絡すること。

7. アクティブラーニング

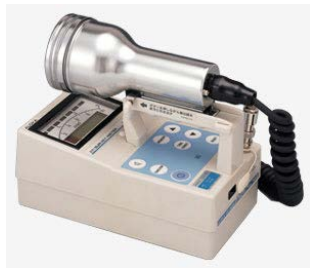
小テスト、実習レポートをLACSで行い、授業への取り組みを評価する。

環境因子系授業予定(3年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	火	3	放射線物理学	放射能・放射線の基礎物理学	西	1 講
4	4	火	4	放射線生物学 (1)	放射線生物作用	井原	1 講
4	11	火	3	放射線生物学 (2)	DNA損傷修復と放射線分子細胞応答	鈴木	2 講
4	11	火	4	放射線生物学 (3)	放射線による細胞死誘導と組織反応	鈴木	2 講
4	18	火	3	放射線生物学 (4)	個体レベルの放射線影響とがんの放射線治療	山内	2 講
4	18	火	4	放射線生物学 (5)	集団レベルの放射線影響	山内	2 講
4	25	火	3	放射線防護学	放射線防護のための規制科学と福島原発事故	松田	2 講
4	25	火	4	非電離放射線	太陽紫外線による健康影響	松田	2 講
5	2	火	3	原爆放射線の影響	長崎原爆と医科大学	三根	2 講
5	2	火	4	放射線影響の解析	統計・疫学的解析	近藤	2 講
5	16	火	3	放射線の利用	医療における放射線利用と放射線防護の基礎	工藤	2 講
5	16	火	4	放射線計測学	放射線計測の基礎	西	2 講
5	23	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射 アイソトープ実験施設	RI実験施設
5	23	火	4		データ解析	原研情報	CBT室
5	30	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射 アイソトープ実験施設	RI実験施設
5	30	火	4		データ解析	原研情報	CBT室
6	6	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射 アイソトープ実験施設	RI実験施設
6	6	火	4		データ解析	原研情報	CBT室
6	13	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射 アイソトープ実験施設	RI実験施設
6	13	火	4		データ解析	原研情報	CBT室

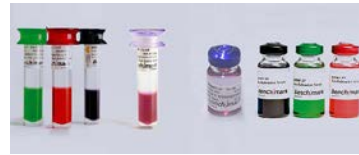
環境因子系実習

実習 1 放射線の計測技術と外部被ばくの測定 (1)

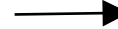


GMサーベイメータ

距離を変えて測定

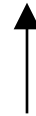


校正用 $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$ 線源



cpmと $\mu\text{Sv/h}$ の
換算係数算出

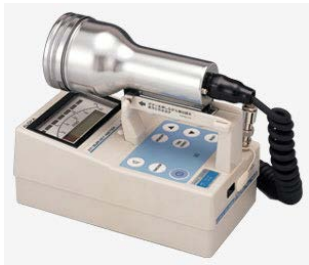
放射能と実効線量率
定数から1mの位置
における実効線量率
の理論値を計算



環境因子系実習

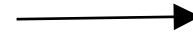
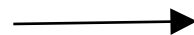
実習1 放射線の計測技術と外部被ばくの測定 (2)

GMサーベイメータ



インド・タミル
ナドゥ高自然放
射線地域土壌

測定



実効線量率算出

推定値の信頼性の考察



NaIサーベイメータ

東京電力福島第
一原子力発電所
周辺土壌

環境因子系実習

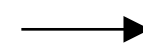
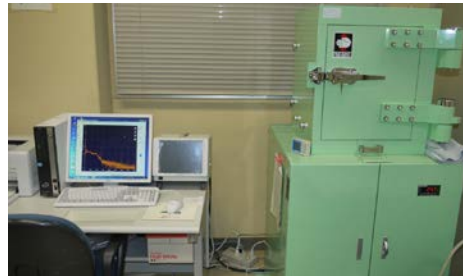
実習2 ゲルマニウム半導体検出器による土壌資料の核種分析と周辺住民の被ばく線量の推定

インド・タミル
ナドゥ高自然放
射線地域土壌

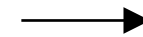
Ac-228 / Th-228
Cs-134 / Cs-137



核種分析



分布マップの作成



IAEA TECDOC1162
Procedure E3 に基づく
被ばく線量の推定

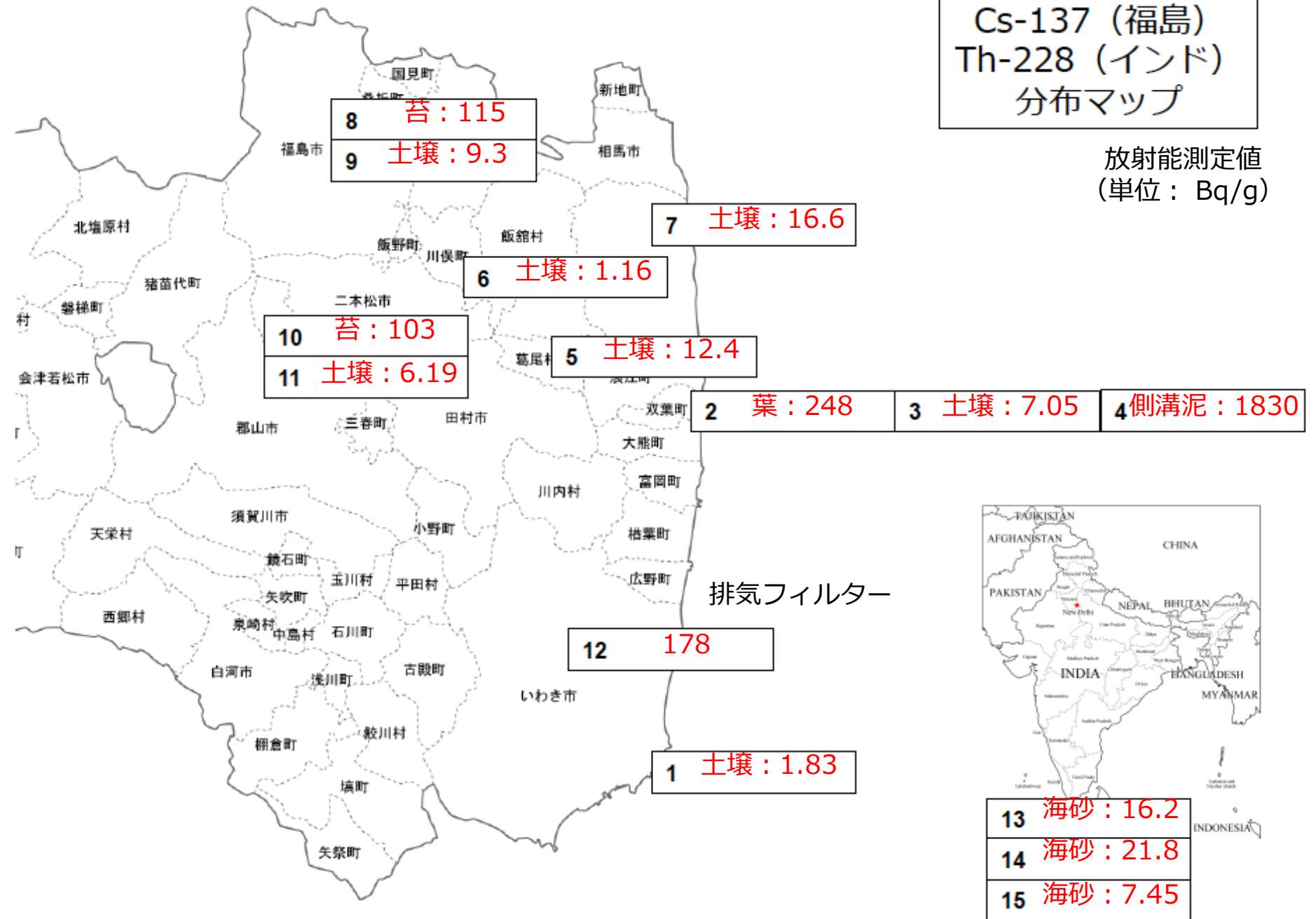
健康リスクの考察

福島県内各地の
汚染土壌

ゲルマニウム半導体検出器

Cs-137 (福島)
Th-228 (インド)
分布マップ

放射能測定値
(単位: Bq/g)

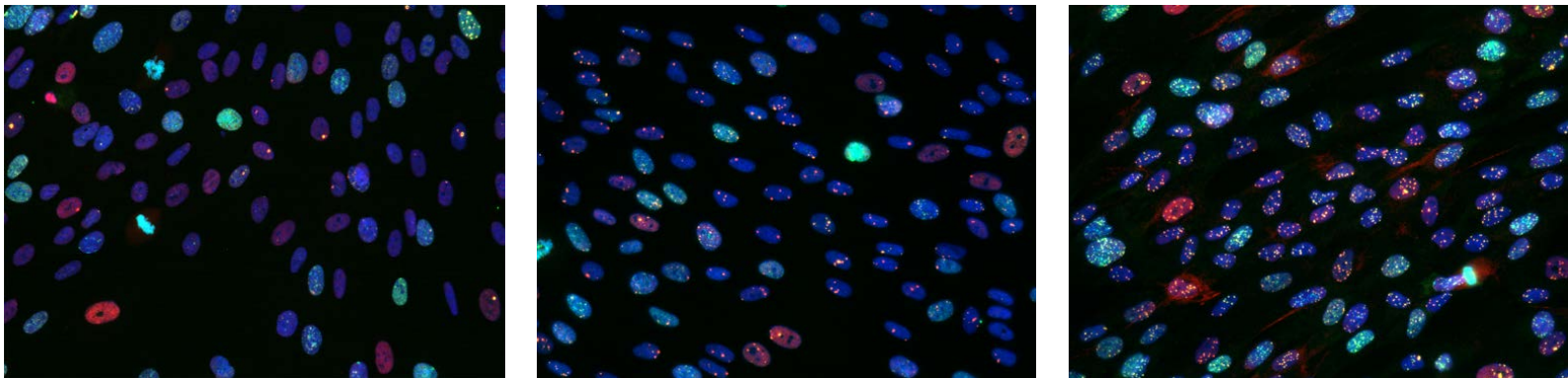


環境因子系実習

実習3 放射線によってできるDNA二本鎖切断の定量

正常人線維芽細胞におけるフォーカス（リン酸化ヒストンH2AX、53BP1）の顕微鏡写真

- 0 Gy
- 0.1 Gy 照射直後、6時間後、12時間後
- 0.25 Gy 照射直後



フォーカスカウント

DNA二本鎖切断の線量依存性と修復について考察

- 広島大学シラバスについて

広島大

1. 放射線生物学・放射線健康リスク学・レギュラーコース

概要：講義名「放射線生物学・放射線健康リスク学」で15コマの講義を行う。

対象：医学科2年生（必修）、歯学科2年生（選択必修）

形態：講義中心（一部、チュートリアル）

授業時間：前期 火曜日 3・4時限（90分）

講義内容：別紙

2. 放射線災害実習

概要：医学部5年の臨床実習の中で、放射線災害医療実習を行う。

対象：医学科5年生（必修）

形態：臨床実習I（ポリクリ）の救急医学実習のうち、放射線災害医療実習を実施、実習は6-8人の班で行う。

授業時間：臨床実習期間（4月~翌年2月）の火曜日午後

実習内容：検討中

3. 放射線生物学・放射線健康リスク学・コアコース（インテンシブ）

概要：夏季集中セミナーとして2日にわたり集中講義・実習を行う。

対象：広島大学以外の医学科生、医学科教員（主に中国四国地区の医学部）

形態：集中講義（2日程度）、講義+実習

日時：未定

内容：検討中

4. 放射線生物学・放射線健康リスク学 DVD 教材の作成

概要：「放射線生物学・放射線健康リスク学・レギュラーコース」から8回分の講義を選んでDVDに収録する。一回の講義は60分とする。DVDは全国の医学部に配布するとともに、上記コアコースの補習教材としても使用する。

平成29年度前期講義実施計画

放射線生物学・放射線健康リスク学
夏季集中セミナー(暫定案)

科目名 (英文科目名)		放射線生物学・放射線健康リスク科学 Radiation Biology & Radiation Health Risk Sciences		
開設曜日時限		火曜日3・4時限 (10:30~12:00)		教室
				第5講義室
回数	月 日	講 義 テ ー マ (英 文)		担当教員名
1	4月11日	授業の概要 Introduction 放射線災害における医師の役割: 原爆被爆者の医療経験から		栗井和夫 鎌田七男 (広大名誉教授)
2	4月18日	原爆の疫学 Epidemiology of atomic bomb survivors		小笹晃太郎 (放射線影響研究所)
3	4月25日	放射線物理の基礎 Radiation physics		保田浩志
4	5月 2日	放射線の物理現象と生物影響の接点 Initial process of biological effect of ionizing radiation		飯塚大輔
5	5月 9日	放射線防護 Radiological protection		保田浩志
6	5月16日	放射線の生物学的影響(1) DNA 損傷修復機構 DNA repair system		松浦伸也
7	5月23日	放射線の生物学的影響(2) 染色体損傷 Chromosomal aberration		田代 聡
8	5月30日	放射線の生物学的影響(3) 放射線発がん Radiation carcinogenesis		稲葉俊哉
9	6月 6日	医療放射線と人体影響(1) 診断放射線による被曝影響と放射線防護法 Radiation exposure and protection in radiological examinations		栗井和夫
10	6月13日	医療放射線と人体影響(2) 放射線治療のための生物学 Radiation biology for radiotherapy		永田 靖
11	6月20日	原子力災害医療(1): 緊急被曝医療 Radiation emergency medicine		廣橋伸之
12	6月27日	原子力災害医療(2): メンタルヘルスケア Mental health care at radiation emergency		前田正治 (福島県立医大)
13	7月 4日	放射線リスクコミュニケーション Risk communication		神田玲子 (放射線医学研究所)
14	7月11日	全体討論 Discussion		田代、廣橋、栗井
15	7月18日	試験 Examination		栗井 和夫
備 考 成績評価の方法: 試験成績と出席状況等について総合的に評価する。				

日程	時間	内容	担当者
第1日	13:00-13:10	オリエンテーション	栗井 田代 保田 廣橋 栗井
	13:15-14:15	放射線生物学の基礎	
	14:30-15:30	放射線防護	
	15:45-16:45	放射線災害医療	
	17:00-18:00	放射線リスクコミュニケーション	
第2日	9:00-12:00	放射線災害医療実習	廣橋、田代、 栗井、保田

日程候補

第1候補: 8月18日(金)および19日(土)

第2候補: 8月25日(金)および26日(土)

放射線生物学・放射線健康リスク学

DVD 内容(暫定案)

備考:

各講義は1時間とする。

夏季集中セミナーの補習教材とするほか全国の医学部に配布を行う。

回数	講 義 テ ー マ	担当教員名
1	放射線の生物学的影響(1)	松浦伸也
2	放射線の生物学的影響(2)	田代 聡
3	放射線防護	保田浩志
4	医療放射線と人体影響(1) 診断放射線による被曝影響と放射線防護法	粟井和夫
5	医療放射線と人体影響(2) 放射線治療のための生物学	永 田 靖
6	原子力災害：原爆の疫学	小笹晃太郎
7	原子力災害：緊急被曝医療	廣橋伸之
8	放射線リスクコミュニケーション	神田玲子

- 福島県立医科大学シラバスについて

災害前(計6時間)



災害後(計82.5時間)

3年生 医学物理学(3)

- ①放射線の基礎(性質、単位)
- ②放射線人体影響(確定と確率的影響)

4年生 画像診断と放射線治療(1.5)

- ①総論(一部に人体影響、放射線防護)

4年生 麻酔・救急医学(1.5)

- ①災害医学(一部に放射線災害)

1年生 人体機能学概論(2)

東日本大震災と原発事故

3年生 医学物理学(3)

3年生 放射線生命医療学(20)

①東日本大震災と原発事故医療対応

②放射線生物学と測定実習

③放射線の種類・単位・性質、④人体影響

⑤DNA修復機序、⑥染色体と線量評価

⑦放射線事故、⑧最前線病院の医療活動

⑨原子力近代史と法律、⑩災害地域医療

⑪メンタルヘルス、⑫チェルノブイリ原発事故

⑬甲状腺と健診、⑭リスクコミュニケーション

⑮発がんメカニズムからみた放射線影響

3年生 チュートリアル(9)

4年生 画像診断と放射線治療(1.5)

4年生 麻酔・救急医学(2)

5年生 放射線災害医療臨床実習(42)

放射線測定実習、シミュレーション実習、リス

コミ演習、討議討論

6年生 臨床総括講義(3)

図3. 福島医科大学医学部シラバスからみた放射線災害医療学教育の変化

福島県立医大

科目・コース（ユニット）名：放射線生命医療学【医学3】

（英語名称） Radiation Life Science and Medicine

担当責任者： 大津留 晶、坂井 晃、長谷川 有史

開講年次： 2017年度（平成29年度） 開講学期： 前期

必修／選択： 必修 授業形態： 講義

概要／方針等：

- （1）放射線の光と影～放射線の利用と原子力災害の歴史～
- （2）放射性生物学の基礎と放射線細胞障害機序
- （3）放射線被ばくの人体への影響
- （4）線量測定と線量評価
- （5）被ばく医療と放射線災害医療～福島第一原発事故～
- （6）放射線とがん～発がん分子機構～
- （7）白血病と甲状腺がん
- （8）災害とメンタルヘルス
- （9）リスク学とリスクコミュニケーション
- （10）放射線災害と科学・技術・社会

学習目標：

- （1）放射線の種類・単位と性質が説明できる
- （2）被ばくによる細胞障害と発がん機序を理解する
- （3）放射線被ばくによる人体への影響について解説できる
- （4）過去の放射線事故や原子力災害、福島原発事故の現状について理解する
- （5）被ばく医療と原子力災害医療における医療対応の特徴を説明できる
- （6）線量評価と基準値、医療や社会におけるトレードオフを解説できる
- （7）災害の人間学的側面、社会的側面、政策上の放射線防護と原子力防災を理解できる
- （8）白血病と甲状腺がんについて説明できる
- （9）災害保健としての健康調査・スクリーニングのあり方を説明できる
- （10）インフォームドコンセントとリスクコミュニケーションの相違を理解できる
- （11）放射線災害の被災者の気持ちに共感し、そのメンタルヘルスを理解する

評価方法： 定期試験（記述問題と選択式問題）、講義のレスポンスカード、再試の場合は面接試験（予定）

原子力災害サイクル

探索・搬送・救急医療 DMAT
情報収集

モニタリング・線量推計

情報発信・
災害訓練

避難・屋内退避 安定ヨウ素剤

災害発生

スクリーニング

+ 原発事故
+ 原発事故

避難所・
救護所医療

原子力災害
・OFC訓練

急性 対応期

緊急被ばく医療

避難訓練

災害準備
・備蓄

事前： 準備期

クライシス・
コミュニケーション

教養教育
科学情報発信
新たな医学教育

医療ロジスティクス
医療コーディネーター

回復・リハビリ テーション期

インフラの整備

原子力防災計画

調査・健診・分析

除染・モニタリング・線量測定

医療体制整備
支援者支援

リスク・コミュニケーション

線量評価・低減対策

メンタルヘルス

授業計画／担当教員等：

	月	日	曜日	時限	テーマ	(担当講座)
1)	4	7	金	I	序論～放射線災害の歴史～	(放射線健康管理学)
2)	4	14	金	I	東日本大震災と福島第一原発事故	(放射線災害医療学)
3)	4	21	金	I	原子力災害：私たちに課せられた宿題	(副学長)
4)	4	28	金	I	放射線の種類、単位、性質	(放射線物理化学)
5)	5	12	金	I	放射線と染色体異常	(弘前大学)
6)	5	19	金	I	放射線障害と DNA 修復	(放射線生命科学)
7)	5	26	金	I	放射線の人体影響	(放射線生命科学)
8)	6	2	金	I	電離放射線と血液腫瘍	(放射線生命科学)
9)	6	8	木	IV	リスク学 (1)	(健康リスクコミュニケーション学)
10)	6	8	木	V	リスク学 (2)	(健康リスクコミュニケーション学)
11)	6	9	金	I	福島近代史と原発事故の法的課題	(人間科学)
12)	6	15	木	IV	原子力災害：病院避難の功罪	(双葉厚生病院)
13)	6	15	木	V	原子力災害：最前線病院の現実	(南相馬市立病院)
14)	6	16	金	I	災害後の福島の現状と健康問題	(放射線健康管理学)
15)	6	22	木	IV	がんの生物学と放射線	(放射線健康管理学)
16)	6	22	木	V	チェルノブイリ小児甲状腺癌	(長崎大学)
17)	6	23	金	I	放射線災害とメンタルヘルス	(災害こころの医学)
18)	6	30	金	I	甲状腺検査と甲状腺疾患	(放射線健康管理学)
19)	7	7	金	I	がんスクリーニングについて	(放射線健康管理学)
20)	7	14	金	I	全体のまとめ	(放射線健康管理学)

医学部5年臨床実習(BSL)のシラバス

3年次の座学で学んだ基礎をもとに、討論や実習を行う

- (1) 放射線災害医療に必要な基礎知識と測定実習(第1日目、第2週水曜日)
 - ① 8:30-9:00:オリエンテーション
 - ② 9:00-9:50: 東日本大震災の概要について(マインドマップ作成)
 - ③ 10:00-11:00: 放射線と健康(ディベート)
 - ④ 11:00-12:00: 原発事故前後の環境放射線と線量評価
 - ⑤ 13:00-15:00: 放射線測定実習
 - ⑥ 15:10-16:00: 避難者の状況とメンタルヘルス
 - ⑦ 16:00-17:00: 急性放射線症候群
- (2) 放射線と健康に関する臨床医学と基本実習(第2日目、第2週木曜日)
 - ① 9:00-10:20: 甲状腺疾患と甲状腺スクリーニング(討論)
 - ② 10:30-12:00: WBC実習
 - ③ 13:00-14:30: 健康相談実習
 - ④ 14:40-15:40: リスクコミュニケーション特論
 - ⑤ 15:50-16:40: まとめと症例問題解説
 - ⑥ 16:40-17:00: ポストテスト
- (3) 緊急被ばく医療実習(第3日目、救命救急医学BSLの第1週水曜日に行います)
 - ① 9:00-9:15: オリエンテーション
 - ② 9:20-12:00: 放射性物質汚染・放射線被ばく傷病者に対する外傷初期診療実習
 - ③ 13:00-15:00: 放射線災害机上演習(避難所設営演習)
 - ④ 15:10-16:00: 社会コミュニケーション特論
 - ⑤ 16:10-16:40: まとめ
 - ⑥ 16:40-17:00: ポストテスト
- (4) 見学実習(様々な放射線災害下における事業を見学)

- 組織表について

【長崎大学組織表】

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
1 下川 功 (事業責任者)	長崎大学医学部・医学部長、大学院 医歯薬学総合研究科・研究科長	事業全体総括、事業推進委員会委員長
2 永山 雄二	長崎大学原爆後障害医療研究所・所長	事業推進プロジェクトリーダー、事業 推進委員会委員
3 松田 尚樹	長崎大学原爆後障害医療研究所・教授	事業推進プロジェクトサブリーダー、 事業推進委員会委員、教育カリキュラム 開発、教育実施、調査・編成・広報
4 高村 昇	長崎大学原爆後障害医療研究所・教授	教育カリキュラム開発、教育実施、編成
5 工藤 崇	長崎大学原爆後障害医療研究所・教授	教育カリキュラム開発、教育実施、編成
6 林田 直美	長崎大学原爆後障害医療研究所・教授	教育カリキュラム開発、教育実施、広報
7 鈴木 啓司	長崎大学原爆後障害医療研究所・准教授	教育コンテンツ作成、教育実施、調査、 編成
8 山内 基弘	長崎大学原爆後障害医療研究所・助教	教育コンテンツ作成、教育実施、調査、 編成
9 西 弘大	長崎大学原爆後障害医療研究所・助教	教育コンテンツ作成、教育実施、調査、 広報
10 折田 真紀子	長崎大学原爆後障害医療研究所・助教	教育コンテンツ作成、教育実施、調査、 広報
11 柳原 克紀	長崎大学医学部・副医学部長兼医学科 ・教務委員長、大学院医歯薬学総合研究科 ・教授	医学科カリキュラム及びシラバス作成、 教育実施、編成
12 安武 亨	長崎大学医学部・先端医育センター長 ・教授	医学科カリキュラム及びシラバス作成、 教育実施、編成
13 浦田 芳重	長崎大学医学部・先端医育センター ・助教	本プロジェクトの専任助教
14 久松 亜由美	医歯薬学総合研究科 事務部 学務課 学務係	事務

【広島大学組織表】

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
1 秀 道広	広島大学医学部・学部長、学術院・教授（大学院医歯薬保健学研究院・皮膚科学研究室・教授）	事業総括
2 栗井 和夫	広島大学医学部・副学部長、学術院・教授（大学院医歯薬保健学研究院・放射線診断学研究室・教授）	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員、教育プログラム責任者
3 松浦 伸也	広島大学原爆放射線医科学研究所・所長、学術院・教授（原爆放射線医科学研究所・放射線ゲノム疾患研究分野・教授）	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員、教育プログラム開発・編成担当(総括)
4 永田 靖	広島大学学術院・教授（大学院医歯薬保健学研究院・放射線腫瘍学研究室・教授）	教育プログラム開発担当
5 神谷 研二	広島大学学術院・特任教授（原爆放射線医科学研究所・分子発がん制御研究分野・特任教授）	事業推進委員会委員
6 田代 聡	広島大学原爆放射線医科学研究所・副所長、学術院・教授（原爆放射線医科学研究所・細胞修復制御研究分野・教授）	事業推進委員会委員、教育プログラム開発
7 稲葉 俊哉	広島大学学術院・教授（原爆放射線医科学研究所・がん分子病態研究分野・教授）	教育プログラム開発・編成担当
8 保田 浩志	広島大学学術院・教授（原爆放射線医科学研究所・線量測定・評価研究分野・教授）	教育プログラム開発・実習担当
9 廣橋 伸之	広島大学学術院・准教授（大学院医歯薬保健学研究院・救急集中治療医学研究室・准教授）	教育プログラム開発・実習コーディネーター担当
10 新野尾 佳子	広島大学大学院医歯薬保健学研究院 放射線診断学・秘書	事務

【福島県立医科大学組織表】

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
1 石川 徹夫	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・教授	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員、共同大学院専攻長、シラバス作成
2 大津留 晶	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・教授	事業推進プロジェクトサブリーダー、事業推進委員会委員、教育カリキュラム開発、シラバス作成、国際教育比較担当
3 大平 哲也	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・教授	災害保健カリキュラム開発・教育・指導実践
4 熊谷 敦史	福島県立医科大学・ 災害医療総合学習センター ・講師	放射線災害医療教育担当・実習訓練指導
5 坂井 晃	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・教授	放射線生命科学カリキュラム開発・放射線生物学実習指導
6 鈴木 義行	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・教授	放射線安全・防護教育担当
7 津山 尚宏	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・准教授	放射線生命科学カリキュラム開発・放射線生物学実習指導
8 長谷川 有史	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・教授	災害医療関連カリキュラム開発、シラバス作成、放射線災害医療教育担当・実習訓練指導
9 前田 正治	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・教授	災害こころのケア教育プログラム担当・実習指導
10 緑川 早苗	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・准教授	臨床医学実習プログラム担当、健診実習プログラム担当
11 村上 道夫	福島県立医科大学(大学院/共同大学院・ 医科学専攻/災害被ばく医療科学専攻)・准教授	リスク評価・リスク制御学プログラム担当・ワークショップ型実習プログラム担当
12 吉田 克己	医療人育成支援センター係長	事務

今後の展望

- 教育交流
 - － 講師および学生の相互乗り入れ
 - － 教育コンテンツ(DVD等)の共同開発
- 事業拡大
 - － DVD配布
 - － 既存の教育プラットフォームの活用
- 国立大学医学部長会議 放射線健康リスク教育必修化WGとの連携
 - － 講師派遣、E-learning
 - － コア・カリキュラム改定
 - － 第49回日本医学教育学会大会(8月、札幌)シンポジウム「医学教育における放射線リスク科学教育の必須化」(シンポジスト:細井(東北大)、神田(放医研)、大津留(福島医大)、佐々木(文科省))企画